

★★★ 本吉地区総体・県総体・東北大会終わる ★★★

5月から6月にかけて、平成26年度宮城県高等学校総合体育大会が行われ、西高生も各競技で健闘してきました。なお、陸上競技部の吉田大地君(3年2組)、千葉紗稀さん(3年2組)、佐藤晴菜さん(2年1組)、がひとめぼれスタジアム宮城で行われた東北大会に出場してきました。

【陸上競技部】

■県総体■

- 吉田 大地 (3年) 砲丸投 2位 円盤投 3位
- 千葉 紗稀 (3年) 走高跳 4位
- 佐藤 晴菜 (2年) 七種競技 3位
- 吉田 愛子 (3年) 走幅跳 8位

<県総体出場>

- 及川 大貴 200m
- 川上 永遠 800m
- 坪井 健太 1500m
- 佐藤 介 110mH
- 岩井 拓海 走高跳
- 齋藤 迅 走幅跳
- 遠藤 真 3000mSC, 5000m



- 男子 400mR (及川大貴・愛田直矢・齋藤 迅・菊田 貢・佐藤 介・石川諒)
- 男子 1600mR (及川大貴・愛田直矢・坪井健太・菊田 貢・川上永遠・石川諒)

- 小野寺 咲 100m, 200m
- 佐藤 祐菜 200m, 400m
- 加藤 虹花 1500m
- 藤村 綾 走高跳
- 菅原 実咲 走幅跳
- 川村 理紗 円盤投
- 小松 慧 円盤投
- 及川 紗英 やり投
- 小松 和佳奈 やり投



- 女子 400mR, 1600mR

(小野寺咲・佐藤祐菜・佐藤晴菜・菅野憂芽・佐々木優花・佐々木望)

■東北大会■

- 吉田 大地 (3年) 砲丸投 36人中8位
円盤投 36人中12位
- 千葉 紗稀 (3年) 走高跳 36人中16位
- 佐藤 晴菜 (2年) 七種競技 24人中14位

【バドミントン部】

■地区総体■

- ダブルス 佐々木笑子・佐々木倅子ペア 3位、●シングルス 佐々木笑子 2位 佐々木倅子 3位

- 団体戦 第1位

■県総体■

- 団体戦 対 仙台商業高 2-3 1回戦敗退

【ソフトテニス部】

男子

■地区総体■

- 渡辺・千葉(駿)ペア 第3位
- 村上・小野寺(大)ペア 県大会出場枠獲得
- 団体戦 2回戦敗退

■県総体■

- 渡辺・千葉(駿)ペア 3回戦敗退
- 村上・小野寺(大)ペア 2回戦敗退
- 団体戦 対 白石工業高 0-2 1回戦敗退

女子

■地区総体■

- 小野寺(梨)・西城ペア、齋藤(優)・千葉ペア 県大会出場枠獲得
- 団体戦 第3位

■県総体■

- 小野寺(梨)・西城ペア 3回戦敗退
- 齋藤(優)・千葉ペア 1回戦敗退
- 団体戦 1回戦敗退

【フェンシング部】

■県総体■

- 男子エペ個人 熊谷 春樹 第6位
- 男子フルーレ個人 熊谷 春樹 3回戦敗退
- 女子エペ個人 奥玉 僚有 1回戦敗退
- 女子フルーレ個人 奥玉 僚有 1回戦敗退

【サッカー部】

■県総体■

- 対 宮城広瀬高 0-2 2回戦敗退

~大会を終えて~

自分の目標とする全国という舞台で戦うことができず、正直悔しさを感じています。全国へ出場できるチャンスのある大会はまだあるのですが、今は心の整理がついていません。

ただ、今まで陸上を通じて出会ってきた人たちには感謝しています。全国に出場する宮城県代表のライバル達にも頑張ってもらいたいです。

後輩たちには、怪我に気をつけ、自分の目標に向かって頑張ってもらいたいです。そして、これから出会うであろう多くの人やライバル達に感謝して取り組んでほしいと思います。

本当に応援ありがとうございました。

(陸上競技部 3年 吉田 大地)

【 バスケットボール部 】

■地区総体■

対 気仙沼向洋高 66-48、対 気仙沼高 39-79
対 志津川高 55-111、対 本吉響高 69-65

■県 総 体■

対 宮城広瀬高 39-90 1回戦敗退

【 バレーボール部 】

■地区総体■

対 志津川高 0-2、対 本吉響高 0-2

■県 総 体■

対 名取北高 1-2 1回戦敗退

【 剣道部 】

■地区総体■

男子個人 吉田 寅八 ベスト8進出
女子個人 小野寺 可南 第3位

■県 総 体■

*男子団体 対 古川高 0-3
対 東陵高 0-4 予選敗退
個人 及川 祥汰 1回戦敗退
笹田 壮佑 1回戦敗退
*女子団体 対 一迫商業高 0-5
対 仙台白百合高 1-3 予選敗退
個人 佐藤 亜美 2回戦敗退
小野寺 可南 3回戦敗退

先生からのメッセージ

阿部 秀也 先生

私は山形大学農学部を卒業しました。農学部と聞くと、農業研究の印象が真っ先に出てくると思いますが、実は人間の生活に関わるすべての分野を扱う学部です。具体的には、農業の研究の他に、分子生物学や生態学、物理学、工学、経営学、民俗学、心理学など実に多様です。そして、どの分野も個性豊かで、教授陣、学生も変わった人だらけ。毎日が刺激であふれていました。友人も皆個性的で、私に無い感性を持っている人ばかり。毎晩、友人と机を囲みながら捕ってきた魚・肉・作物を持ち寄り、研究の話やくだらない世間話に花を咲かせる、充実した毎日でした。

様々な分野の中でも、私は河川環境学を専攻し、サケ科魚類のサクラマスの研究をしていました。幼い頃から生物が大好きで、特に魚は釣るのも見るのも食うのも大好き。研究はサクラマスばかり、研究以外は釣りのことばかり考え、朝5時から川に調査へ行き、夕方には釣りに行く魚漬けの毎日を送っていました。研究室で行う調査にはカエルの鳴き声で種を判別したり、用水路で魚や貝を採集したり、電気ショッカーを使って魚を感電させ採集したり、水生昆虫を網で採集したり、自然に関わる様々な調査があり、そのすべてを体験してきました。今、理科の教員として生徒に教える立場になり、研究や調査の体験が何よりの宝物となっています。大学の四年間はあっという間に過ぎ去っていきましたが、そこで得た物は私の22年という短い人生の中でかけがえのない物ばかりです。

大学進学を目指す生徒の皆さん、絶対にあきらめることなく、合格をつかみ取ってください。人生の中で必ず大切な時間となります。そのために、学校・先生はガンガン使いましょ。なんでもすぐに質問し、『わからない』を無くしていくことが合格の近道です。これは一般就職・公務員を目指す人にも共通しています。今から本番までの期間は今までの自分から化けるチャンスです。小さいことから努力を積み重ね、必ず合格を手に入れてください。

米澤 万尋 先生

このALTの先生かっいいいなあ！英語でたくさん話してみたいなあ！なにに、交換日記をしてくれるの？よし、頑張るぞ！

極端に言えば、この中学生の頃の小さな憧れに対する取り組みの延長線上に今の私がいる。カナダ出身のALTは、母国での本格的なクリスマスの様子や近所のさもない日常の風景など、多くの写真とともに私たちに異文化を紹介してくれた。稚拙な文章を懸命につないで書いた私の日記は、最小限の添削に、最大限のほめ言葉やたくさんの質問、コメントが加えられて戻ってきた。興味が沸いたら極めたいという意識も芽生え、失敗を繰り返しながらも少しずつ前に進んできた。

みなさんはどうですか？はっきりと将来の目標が決まっている人もいれば、勉強や部活に追われる日々のなか、漠然とした不安を抱いている人もいるのではないだろうか。個人的には、両者に優劣はなく、当然のことだと思う。選択肢や情報が錯綜するなかで、自分に最適な道を決めなくてはならないのだから。

私が一つ言えることがあるとすれば、「好奇心を持ち続け、興味を持ったことには一生懸命に取り組むこと」に尽きる。好奇心があれば、アンテナを張り情報が得やすくなる。一生懸命に取り組めば、その過程で新たな発見があり、さらに選択肢が増える可能性もある。

この姿勢は各分野の専門家がそろそろ今の環境、高校生活を充実させることで身につけることができるはず。身近な学習や部活への取り組みは、大切な土台作りの一環。すぐに結果が出ないこともあるかもしれないが、努力する過程は結果と同じくらい貴重で今後の糧となることを心に留めておいてほしい。

最後に、私が尊敬するシドニー五輪女子マラソン金メダリスト、高橋尚子さんの座右の銘を贈ります。

『何も咲かない寒い日は、下へ下へと根をのばせ。 やがて大きな花が咲く』